

§ ~~~ 一枚の葉書 ~~~ §

在京は 50 数年。妻/勝子の実家熊本に転居して二年半。
二人で独自コンサートを続けている（亀さん企画ご参照）。
東京で(故)永六輔氏と出会い、葉書での交流を仰ぎ、
氏が主宰する老舗の名劇場渋谷ジアンジアンでは
数多タレントとステージを競い合った。
氏とも共演し各地へも参じた。
離島・日本人学校・はては刑務所慰問も…。

さて小生、東京から熊本の勝子父あてに
毎日一枚ずつ葉書を送り続けていた。
政治/スポーツ/日々他愛ないことをしたため投函。
敬愛する父でした…。
父が他界したあと一人残った義母にも送り続けたが、
気丈な母も後を追い、家はポツンと空っぽに。
たまたま仕事で実家に帰ると誰が置いたか
仏壇に最後の一枚の葉書が添えてあった。
小生の字で『完！』。
27 年間の月日の一万通はその後 煙にした。
一枚の葉っぱに託す文言の綾、
どれほどのことと僕は学ばせていただいたことか…。

一万枚の葉書束は健気な音をたて、
風にそよいで逝った…。
その実家に今、僕ら二人は棲息している。

＜亀山法男＞

熊本県文化協会・懇話会からの依頼原稿
〈熊本文化「遠景近景」2025年3月号に掲載〉